

ISerの進路

卒業までの
あんなこと
こんなこと



必修! 英語プレゼン集中講義

視線と姿勢、構成の組み立て方、よりよい言い回しなど、英語でのプレゼン方法を少人数クラスで特訓。

インターン

夏休みなどを利用して、国内・海外企業や研究所でインターンに行く人も。

キョージュ面談



進路ガイダンス

研究科の「進路ガイダンス」をチェック。企業人が語る「グローバル時代に求められる人材とは」、就職活動Tips、博士課程で培った力をいかに活かすかのOBトークなど。



就職ガイダンス

学科・専攻の「就職ガイダンス」で、就職事情をチェック。キャリアサポート室と連携した企業の求人情報や技術説明会などもある。



卒業生の約90%が、情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻に進学。

留学

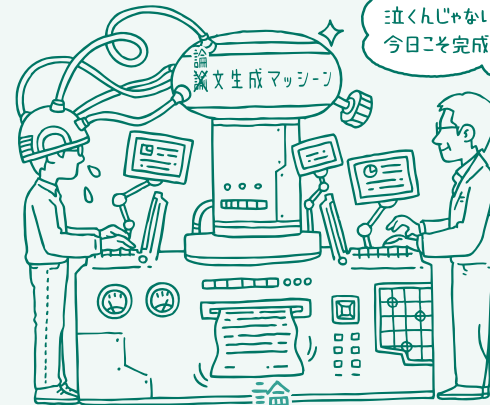
卒業



必修! 英語論文執筆講義

卒業論文は英文で提出。英語ネイティブの講師による論文執筆方法を受講。

Never use the phrase "I think."



卒業論文

..... 締切り目前、キョージュとカンヅメ

卒業後の進路

情報科学科の卒業生の多くは大学院（コンピュータ科学専攻）に進学しますが、他専攻や他大学に進学、企業や官公庁・公共企業体などに就職する方もあります。

情報科学科、コンピュータ科学専攻の修士課程、博士課程修了後の就職先イメージは、以下のとおりです。卒業年時点の集計ですので以下の数字には表れていませんが、博士課程修了後は大学に在籍したあと、企業の研究機関や国外の大学に就職する例もあります。

●2015年度情報科学科卒業生の進路

大学院進学 26名 就職・就職準備 4名
(コンピュータ科学専攻 26名)

●2015年度コンピュータ科学専攻修士課程修了生の進路

博士課程進学・他大学入学など 8名 就職 21名 その他 1名
(コンピュータ科学専攻 6名、バミンガム大学 1名、東京大学理学部修士入学 1名)

●2015年度の就職 (五十音+アルファベット順)

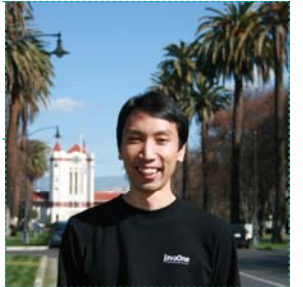
- 情報科学科卒業生
三井住友信託銀行、東京システム技研
- コンピュータ科学専攻修士課程修了生
インテリジェントシステムズ、学研プラス、グーグル、千、ソフトバンク、チームラボ、特許庁、ドワンゴ、日立製作所、富士通CIT、フューチャーアーキテクト、マイネット、ヤフー、リクルートホールディングス、ワークスアプリケーションズ、AtCoder、GFT、NTTデータ
- コンピュータ科学専攻博士課程修了生
アルゴリズム国立研究所、国立情報学研究所、東京大学

海外で活躍する先輩たち

(所属は2009年3月のインタビュー当時のものです)

オープンソースソフトウェアを開発

Sun Microsystems
川口 耕介 (情報科学科22期)
Kohsuke Kawaguchi
—アメリカ・カリフォルニア州在住



1977年生まれ。情報科学科在学中の1998年に有限会社Swiftを設立。2001年Sun Microsystems入社。2002年コーネル大学大学院で修士号を取得。2003年Sun Microsystemsに復帰。現在はオープンソースソフトウェアの開発に従事。

中学生のころからプログラミングが楽しくてしょうがない少年でしたから、情報科学科に進学するのは自然な流れでした。在学中にXML関係のソフトウェアを開発する会社を設立、根津の会社と本郷キャンパスを往復する毎日を送りました。

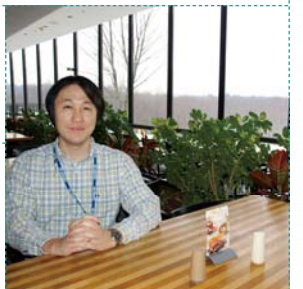
思い出の授業はやはり「CPU実験」です。僕はCPUの設計を担当しましたが、得意のソフトウェアを書くのとは似て非なる分野。大いに楽しみました。仕事では絶対に使わない言語のMLやPrologに触れる機会があったこともよかったです。このときの知識がいまも役立つのが不思議。情報科学科では知らず知らずのうちに「知の基礎体力」を身に付けていたのだと思います。

Sunに入社したのは、僕が作成したソフトウェアが先方の目にとまったためでした。現在はオープンソースソフトウェアの開発をしています。

ソフトウェアの開発のおもしろさは、常に世界一を目指して戦うところ。世界を股にかける感覚で自分の仕事を世界中に通用させていく——そこに醍醐味を感じます。

スーパーコンピュータのLSIを開発

IBM トーマス・J.ワトソン研究所
菅原 豊 (情報科学科22期)
Yutaka Sugawara
—アメリカ・ニューヨーク州在住



1977年生まれ。修士・博士課程では平木研究室に所属、ネットワークプロセッサやFPGAなど超高速コンピュータのハードウェアを研究する。研究室助手を経て、2008年米国IBM入社、研究員となる。

コンピュータが好きで、使うことより作ることに興味があった私は、コンピュータについて深く学べると聞いて情報科学科に進み、ハードウェア系の研究をする道を選びました。

所属研究室では博士課程のとき、超高速コンピュータ「GRAPE-DR」、大容量データの超距離高速通信「データレセボワール」と2つの大規模プロジェクトに参加する機会を得ました。海外学会でのデモに苦労しながら国内外の研究者と交流したことは、貴重な経験です。

現在は、IBMワトソン研でスーパーコンピュータのLSI開発に携わっています。それまで、LSIの設計で最も難しいことは性能を出すことだろうと考えていましたが、実際に実用システムのプロジェクトに参加してみると、それ以上に正しく動作させることのほうが難しいと知りました。情報科学科では、単に知識が得られただけでなく情報科学的な感覚や考え方が身に付き、それがいま役に立っていると感じます。